

団塊世代・元気高齢者地域活性化推進協議会（第5回）議論要旨

＜議題＞

- 1 中間のまとめ（案）
- 2 その他

＜中間のまとめ（案）＞

- 今後の検討として示している内容は、これまで我々が検討してきた事項そのものである。この内容が、検討会の成果物になっていくのでは。
- 東京都としての事業のあり方を最終報告にどこまで具体的に書けるか。もう少し議論が必要。
- 各自治体や各地域の実践などを具体的に例示した方が、イメージが沸きやすいので、もっと拡充した方がいい。

＜その他＞

- 町会のような団体は、生活文化局にある種の拠点があって、23区にそれぞれ連合体があって、その23区の連合体をまとめて町会連合会有る。比較的、やることが徹底する。NPOは、それぞれの考え方で進んでいくので、横のつながりがない。
- 地域の中では、NPOと町会が連携することは可能。間口が広くて何でも取り上げる町会とは違い、NPOは、その活動目的がそれぞれ異なっているため、横につなげない方がいいのではないか。
- NPOは、ピラミッド型の組織的な形というのは難しい。それぞれの思いが違うので、1つにはまとまらない。しかし、地域での課題をどうするかというときには、横につながってくる。地域福祉というときには、地域の課題に基づきながら、そのプラットフォームをつくろうといった動きにはなり得る。そこには、NPOも町会も入って物事を推進していく。
- 災害問題などでNPOと地縁組織と連携するといったこともあり、具体的な事例を挙げながら、連携のあり方を議論した方が分かりやすい。その辺は、神奈川や横浜に比べて、東京は見えにくい状況にある。

- NPOの活動は、地域の方に理解をいただかないとなかなか進まない。NPOの活動内容が町会の方に理解されれば、うちの町内会でもできるのではという感じになる。そうすると、NPO側も町内会のエネルギーをもらって、ここを助けてもらおうという感じになる。
- いい事例があっても広がらない。NPO側には広げるだけの体力はない。事例を掘り起こしながら、どれだけ知らせられるか、という気運づくりが行政の大きな役割。
- 品川区で地域の活動展をやったが、町会と商店街、NPOが集まった。NPOもはっきりした目的はあるが、あくまでも都民や区民のためという前提に立った活動。地域の町会や商店街が、地域内のNPOをいかに利用するかにかかっている。
- 団塊世代の元気高齢者は、町会よりはNPOの方が入りやすい。自分の好きなこと、やりたいことをできる。NPOから入って、町会に入る方がいい。
- 高齢化が深刻になっていくと、地域の中で福祉問題がかなり出てくる。町会とかNPOとか言っていられない状況が、近い将来出てくる。町会、自治会が弱い地域やない地域もあり、そこにはNPOが入ってほしい。その中で団塊の世代の方たちに、担い手として期待したい。
- 地域での支え合いに専門機関が入ってくると、地域住民の人たちは引いてしまう。専門機関が入ると、住民は任せてしまう。地域の団塊世代が入っても自然と成り立つような仕掛けが必要。東京都の調査でも、85%くらいが、ちょっとした見守りで生活が成り立つというデータが出ている。ちょっとした見守りをどうやって地域の中でつくれるか。
- 行政が行う老人の見守り活動は、受ける側が拒否するという傾向もある。老人の場合は、昔から知っている仲間同士で、元気な者が元気でない者の面倒を見ていくというのが、一番心が通い合う。
- 老人連合会や社協は、活動スタイルが生活集団型、総合型。地域市民団体は、機能集団型で特定の目的や内容で活動している。その違いや特徴を生かしながら、お互いが横断的に支援していくために、都がどうかかわるかが今後の課題。
- いろいろな機能を持っている団体をどうつなげるかが課題。つなげられ

る人材（コーディネーター）がいないとなかなか機能しない。

- コーディネーターというように人を指すものと、コーディネートというように、どういう機能を果たすのかというものとがあり、これらを整理する必要がある。地縁組織が崩壊して、高齢化が深刻な場合、NPOを含めて相当介入しないと非常に厳しい。人材という意味では、シニアの方たちをコーディネートするというのは、どういう機能が必要なのか。
- いろいろな地域の様々な人とか、商店街の人たちとかを巻き込んでコーディネーションの仕組みをつくっているところがあり、品川区でもそういう動きがある。
- 団塊の世代が地域に入ってくるときには、友たちと一緒にきて、知り合いがいると仲間内になりやすい。地域の中で知り合いがいると、自治会などに引っ張りやすい。
- 男性は、目的が明確で、誰かと一緒になると入ってくる。目的や役割が分からないと、入りづらい。そこが砕けると大分違う。
- 団塊世代の男性は、退職して地域に戻ってくると、地域の中でどういう能力があって、地域の中でどう役に立てるか、ということが分かっていない。あなたが持っている能力は役に立つということを気づかせる。そういうことを地域でお互いに共有し合って、確認し合って、そうすると何か自信を持ってできる。
- 孤独死をなくすためのネットワークができたが、NPOが声をかけても集まらない。自治会や町内会から声がかかると、管理組合や地域包括センターも参加してくれる。
- それぞれの町会が、自分たちの内部を把握しながら、見守ることが大事。町会、自治会は、自分たちの仕事として優先的にやっていかなければいけない。
- 町会や老人クラブに入る人は積極的な人。自分から入る人や誘われてすぐに入る人たちは、前向きで問題ない。また、買物やおしゃべりに出かけたりのなど元気である。積極的ではなく、そこに入らない人にどう取り組むか。マンションの多い地域、一戸建てが多い地域など、地域によって高齢化の進み方に特徴もある。

- 支え合う担い手としての団塊世代層に、どういう形で担い手をさせるか。地域の支援とは何を支援するのか。高齢者に対して何を支援するのか。自分たちで担う部分はどこなのかを考えた方がいい。具体的に高齢者をどのように支えるのか。それを支える人たちをどう養成するのか。ボランティアグループとどのようにつなげていくのか。
- 住民にコーディネートするときには、すべてのことを知らないといけないという問題がある。町会なら町会の中にすべてが集まって、協働で、仕事はシェアするとしても、すべてが分かるコーディネーターをつくりたい。NPOは確かに専門的だが、その技能を横に広げたいというのは、みんな思っている。
- 東京都など大都市は、地縁組織的な機能は厳しい。空間的な構造や意識の問題もある。反面、NPOや福祉施設、サービスなどの社会資源は一番多い。だからこそ逆に難しさもある。これを団塊の世代が大量に出てくる中で、どう活用するかという非常にいい機会。
- 老人クラブも後期高齢者が多くなっており、いかにして団塊の世代を取り込むかということ年全国的に行っている。自治会に入っている人は、大体老人会にも入る。何も入っていない人は何も入らない。町会、自治会であろうが老人会であろうが、入っていただければ安心できるという思いがある。NPOにしろ、自治会にしろ、どこへ取り込むか。
- 行政は、縦割りのためネットワークがうまく機能しない。行政だけで考えても空振りする。自治体の中でのネットワーク、横の連携が必要。そこに地縁組織とNPO、ボランティアグループなどをどう組み合わせるか。地域的な違いも考えないと空回りする。
- 社会参加をやりたいのに、やっていない人がいる。自分が住んでいる地域のリサイクルや美化、安全に取り組みたいという意識は多くの方がもっている。しかし、自分の住んでいる地域では、何が問題なのか知らない人も多い。そのような情報を開示する役割を行政に期待したい。
- 杉並区は、地域に教育コーディネーターのようなものを置いて、企業にかかわっている人と地域と学校で連携して、子どもの教育を高めようというような活動をしている。
- 団塊世代は、働いてきて、かなり専門性をもって役に立っている。それと、学校の見守りなどには落差がある。団塊の世代の人たちもじっくり考

えなければいけないし、地域の情報をたくさんとる必要がある。団塊の世代の気持ちが分かって、真剣に聞いて、相談に乗るための専門的なスキルが必要。地域には、そのような相談体制が整備されていない。

- 団塊世代でも、自分の親の面倒をみた人たちは、理解度が高い。実際に介護などを経験すると、施設へ行ってボランティア活動をしたい、となる。そうではない人たちをどのようにつかまえるか。
- 団塊世代の地域デビューの相談室をやっているが、相談に来る人は極めて少ない。来てくれる人をつかまえるのは至難の業。何か仕掛けをつくらないとつかまえられる。パーティやイベントなど何らかの形で人を集めてつかまえるという試みを行っている。
- 何か相談に行くときに、行政などの窓口に行っても、自分のセクションしか案内しない。民間では、幅広く自分の知っている範囲のところを全部紹介できる。柔軟に対応できるので、気楽に相談に来られるのではないか。
- 地域の中で常に開いているたまり場と誰かが通ったときに「寄っていきなよ」と声かけられるおせっかいな人が必要。男性は、そういうところへ入るのが苦手なので、声かけがあると寄っていきやすい。
- 住民同士の均質性が高いところは、まとまりやすい。均質性が高いと違和感なく集まりやすいというのは、共通の関心、課題、利害があるから。異質な者同士は交わらない。世代は異質でも、子育てや健康、防犯などの共通項を強調して、同じ目的で集まろうという仕掛けが必要。
- 東京の企業がこのような活動に熱心なのは分からない。ただし、団塊世代は人数も多いので、企業側の人材をいかに地域に対して輩出していくか、マッチングさせていくかは、企業にとっても課題になっている。